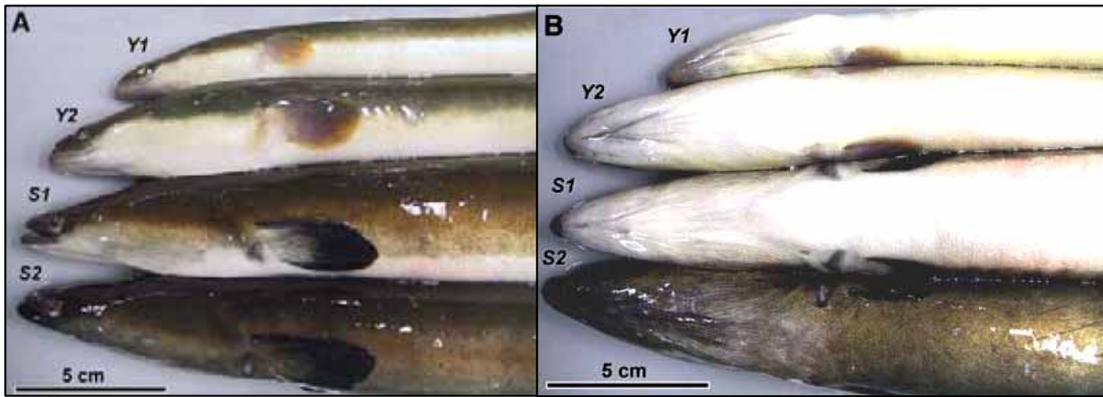


様式 2

静岡県試験研究 10 大トピックス (水産技術研究所)

タイトル	「ウナギの色」で浜名湖から旅立つ親ウナギを守る	研究課題名 期間	鰻生息状況等緊急調査事業 平成 25 ~ 26 年
所 属	水産技術研究所 浜名湖分場	補職名	上席研究員
		研究者名	田中寿臣・青島秀治
		問合せ先	053-592-0139
研 究 概 要	<p>〔背景・ねらい〕</p> <p>ニホンウナギ(以下、ウナギ)は、稚魚であるシラスウナギの不漁や、国際自然保護連合による絶滅危惧種への指定など、その取り巻く環境は年々厳しさを増している。ウナギ養殖は、シラスウナギを池入れすることから始まるが、それは全て天然資源に依存しているのが現状である。これらのことから、再生産に寄与すると思われる親ウナギ保護の機運が全国で高まっている。一方、浜名湖は、天然ウナギの水揚量が年間 10 トン前後ある、全国有数の漁場である。そこで、親ウナギ保護に役立つ知見を得るため浜名湖における天然ウナギの漁獲状況やその特徴を調査した。</p>		
	<p>〔成果の内容・特徴〕</p> <p>1. 銀化() 個体(写真)は、浜名湖では主に 10 月から漁獲され始め、12 月にかけて漁獲物中における割合が増加した。</p> <p>2. 銀化個体のうち、おおよそ 200g 未満はオス、300g 以上がメスと考えられた(図 1)。</p> <p>3. 銀化指数() 別の各指標値を算出したところ、Y2 から S1 にかけて、全ての指標について有意差が見られた(図 2)。外見から区別しやすい「銀化」は、産卵場へ向かう親ウナギの保護を考える時の、最も分かりやすい指標と考えられた。</p> <p>4. 以上の結果から、浜名湖では、「体重」ではなく「銀化」を指標として、11~12 月に放流することにより、再生産に寄与すると思われる親ウナギを雌雄偏らずに保護できると考えられた。</p> <p>銀化・・・成熟に関連した、体色等の外観の変化。銀化の段階を Y1 Y2 S1 S2 の 4 段階の指標(銀化指数)で表し、Y1・Y2 を黄ウナギ、S1・S2 を銀ウナギ(銀化個体)とする。</p>		
	<p>〔成果の活用・留意点〕</p> <p>1. 本研究は、県新成長戦略研究「新たなウナギ産業の創出」の中の一課題を、水産庁委託「鰻生息状況等緊急調査事業」により実施した。</p> <p>2. 本研究は、県と北海道大学が共同研究契約を結んで実施した。</p> <p>3. 本研究で得られた内容は、「浜名湖発親うなぎ放流事業」の会議の場で情報提供を行い、成果が実際に活用されている(以前は体重500g以上を指標として放流が行われていた)。</p>		
	<p>* 図、写真などについては次頁に添付をお願いします。</p>		

様式 2



Okamura *et al.*(2007)

写真 銀化指数別の外観の違い (A : 横側、B : 腹側)

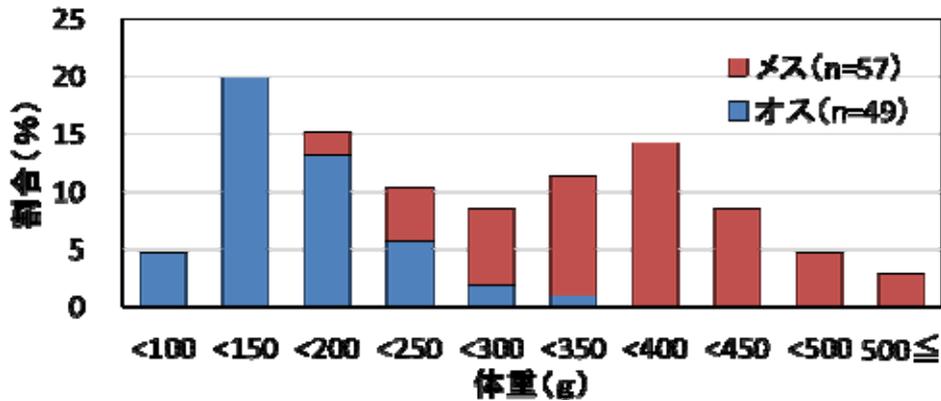


図 1 平成 25~26 年にサンプリングした銀化個体 (S1 以降) の雌雄別体重

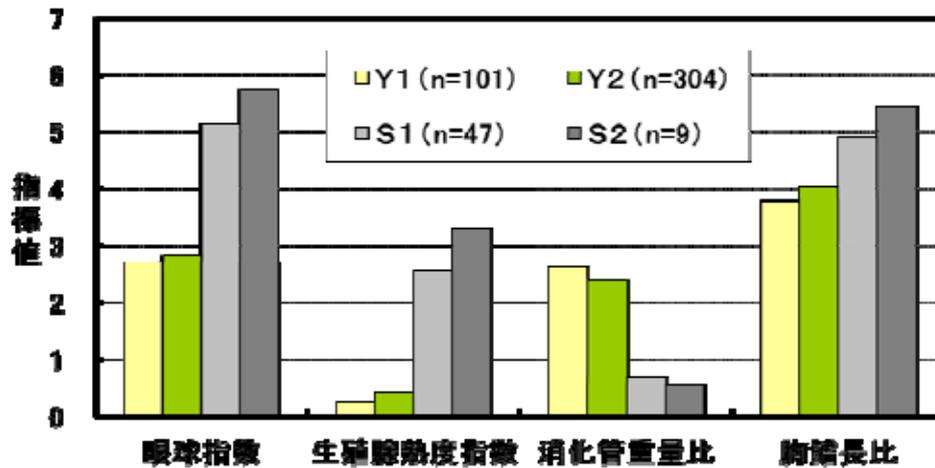


図 2 平成 25~26 年にサンプリングしたメスウナギの各指標別、銀化指数別の指標値

各指標値

眼球指数 = 眼球面積 / (全長 × 10) × 100

生殖腺熟度指数 = 生殖腺重量 / 体重 × 100

消化管重量比 = (胃重量 + 腸重量) / 体重 × 100

胸鰭長比 = 胸鰭長 / (全長 × 10) × 100